

調査問題から見える「授業改善のポイント」＜中学校 英語＞

1 (4) 日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかどうかをみる問題 [話すこと] <平均正答率(参考値) 全国 16.1%>

調査結果の分析

- ・お土産のみの解答、または、お土産とその理由を答えているがその理由がふさわしくない誤答は全体の49.5%であった。
- ・どのようなことを話せば理由になるのか理解できていなかったり、理由を話すために必要な表現が身に付いていなかったりすることが考えられる。



留学生の質問を受け、お土産としてふさわしいものとその理由を伝える問題

【授業改善のポイント】

○聞いたことを基に自分の考えとその理由を述べ合う活動に、継続して取り組ませる

- 活動例
- ・聞く活動を行う前に、教師やほかの生徒とやり取りを行い、話題に関連した情報や表現を共有する。
 - ・主張や質問の意図を、相手の発話の内容から聞き取ったり資料から読み取ったりした上で、自分の考えを理由とともに伝え合う。

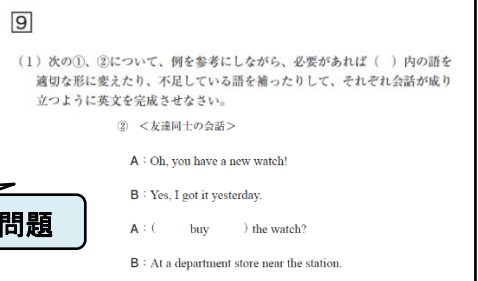
○やり取りを繰り返す中で、生徒の発話について、言語面・内容面から振り返る場の充実を図る

- 活動例
- ・相手をかえながらやり取りを行い、活動の中や後で、自分が使用している語彙や表現の誤りなどに気付き修正したり、表現内容を整理したりする。

9 (1) ② 疑問詞を用いた一般動詞の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる問題 [書くこと] <平均正答率 県 12.8% (全国比-8.1)>

調査結果の分析

- ・疑問詞 where を用いているが、一般動詞の2人称単数過去形になっていない誤答は全体の34.0%であった。
- ・会話の流れから疑問文を書くことや、時制を正しく判断して疑問文を書くことに課題が見られる。



会話が成り立つように英文を完成させる問題

【授業改善のポイント】

○文脈を伴った場面や状況を示し、適切な英文を判断して正確に書ことができるように指導を工夫する

- 活動例
- ・特定の言語材料を用いた英文の穴埋めや並べ替えだけでなく、文脈から文の形式や時制を判断して英文を話したり書いたりする。
 - ・書いた英文を自分で読み直して修正したり、ペアや全体で振り返り正確な英文に書き直したりする。

○疑問文を実際のコミュニケーションにおいて活用できるよう、疑問文を用いて話したり書いたりする場を継続的に設ける

- 活動例
- ・教師が用意した質問ではなく、生徒が考えて教師やALTに質問したり、生徒同士で質問し合ったりする。
 - ・質問したことを書き出して、正しく質問する(書く)ことができているか確認する。

生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成に向けて、「言語活動のくり返しと言語材料等を理解するための練習のバランス」「表現内容を重視しながら、言語使用の正確さに気付かせる指導のバランス」など、『バランス』を大切に授業の充実を図りましょう。